京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月前金 金廿五錢●三ヶ月前金 壹圓▲六ヶ月前金貳 ▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 五月廿三日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

●關稅同盟に關する調査

依て本會は今や日韓兩國々際關係の一轉と共に其施設經營の一新す可きを好機會とし兩國間の關稅同盟を組織して彼我經濟界の共通發達を計劃するは最も機宜に適したるの措置なりと信ず、庶幾くは我政府當局に於て本議の主旨を嘉納せられ其の實行に盡力あらんことを

右本會の決議に依り請願仕候也

右に依れば聯合會も希望する所は韓國現行の關稅法規は廢棄して之に代ふるに我帝國の關稅法規を以つて日韓兩國の間に於ては何れも輸入品に對しては關稅を賦課せざるにあり乃ち日韓兩國を通じて我關稅法規施行の一區域と爲すに在り而して第三國の干繫に付ては韓國貿易の大部分は我國之を占め淸國の如きも殆んど四分の一に過ぎず其他の諸國に至りては共通商關係の極めて些少なるを以て抗論異說を主張するもの之れなかるべしと認たるものに有之候

又本案の遂行に就て最も研究すべきは第三國の均霑を主張するに對し如何に之を處置す可きか將た第三國の均霑を許容すべきかの點に有之候尙ほ最大なる問題は韓國政府の收入に於て將來年々一千五百萬圓內外を減殺するに至ることに有之候此等財政上の問題に付ては政府當局に於て驪梅せらるべきものに可有之と存候得共此等財政問題の解決は本案を解決す可き先決問題なるべしと被存候

次に昨年十月聯合會に提出したる議案並に理由書は左の通りに有之候

日韓關稅同盟の件

(理由) 日韓の政治關係は新協約の締結と共に我優越權を認められ隨て兩國間に於ける經濟狀態も一層の敦厚を來たし其貿易關係の如き益々繁榮を期せんとするに拘はらず兩者關稅の鎖壁は彼我貿易の發展上に多大の障害を與へ爲めに其膨脹力を阻止するに至るは甚だ遺憾とする所なり蓋し之が實行に付ては國際關係上將た韓國財政の點に於て多少の困難を見るべしと雖も日韓兩國今日の關係及び列强に於ける現在の狀勢は之が同盟に付き最も其機宜を得たるものと信ず

聯合會に於ける提案者の說明は大要の如くなりき

本案は頗る重大なる問題にして亦た等しく我が在留官民の希望する處なり若し之を決行する場合は第一經濟と財政に大なる關係を重んじ隨て外國との條約の改正其他韓國政府の收入を減ずる等種々の現象を見る可きに付き其決行は容易の事にあらず然れども本案は日韓貿易の發展上最も緊要なるものと信ず且つ本案は前聯合會に於ても決議の上其筋へ建議したるものなれば前回の決議を踏襲すべく玆に提出せる譯なり

右に付き聯合會に於ては本案は統監府其他外務省に於ても重大なる問題として研究中なる由に付き暫時宿題として充分討議研究を重ぬることに決定致候次第に有之候

尙御參考の爲め別紙四表(省略)相添へ此段及御回答候也(完)

◉京城諸職工平均賃金表

業別		日給	五月	四月
日本人	大工	同	一、五〇〇	一、五〇〇
同	左官	同	一、五五〇	一、六〇〇
同	石工	同	一、九〇〇	一、九〇〇
同	手傳人夫	同	一、一〇〇	一、一〇〇
同	トタン武力職	同	一、五〇〇	一、五〇〇
同	木挽	同	一、五〇〇	一、五五〇
同	疊刺	同	一、五五〇	一、六〇〇
同	ペンキ塗職	同	一、五〇〇	一、五五〇
同	仲仕	同	一、二〇〇	一、二〇〇
同	指物	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同	車夫	同	一、四五〇	一、四五〇
韓人	車夫	同	一、二〇〇	一、二〇〇
日本人	桶屋	同	一、四〇〇	一、四〇〇
同	煉瓦職	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同	鍛冶職	同	一、五〇〇	一、五〇〇
同	提灯職	同	一、八五〇	一、八五〇
同	井戸掘	同	一、七〇〇	一、七〇〇
同	菓子製造	同	一、九〇〇	一、九〇〇
同	表具師	同	一、三五〇	一、二五〇
韓人	表具師	同	一、〇〇〇	九五〇
同	大工	同	一、一五〇	一、二五〇
同	木挽	同	一、〇〇〇	一、一五〇
支那人	大工	同	一、二〇〇	一、二五〇
同	木挽	同	一、二五〇	一、三〇〇
同	石工	同	一、三〇〇	一、二五〇
同	煉瓦職	同	一、三〇〇	一、三五〇
同	人夫	同	六〇〇	六〇〇
韓人	井戸掘	同	七〇〇	七五〇
同	人夫	同	五〇〇	五〇〇
日本人	活版職	同	八五〇	八五〇

▲氷水屋の始(一)　浮世ぐさ

維新前に府下に水屋と稱するものあり、ある人の話に依れば高下四種程ありしが如し(一)細くて丈高き二個の手桶を天秤の兩端に掛け『御前白玉』と呼び賣りするもの現今の豆腐の如きあり(二)現今のしんこ細工吹飴細工の屋臺店の如き屋臺に白玉と盤根とを飾り一方には水を入れる手桶を天秤に掛け行商するありこれは水屋にて白玉を入れ賣るなるが其の屋根障子には市松の模樣など多かりし(三)又やゝ大なる屋臺見世に南京珠の簾さ金剛水など眞鍮に書きたる黑塗の額など飾り白玉砂糖盤根を前面に飾り置き周圍に二三の腰掛けを置きて白玉入れの水を賣る此の頃の水屋の用ふる椀は多くは眞鍮の脚い椀の形なりし(四)又現今の氷店の如く見世にて賣るもありしが其の數は至つて少なく一町內に僅か二三軒に過ぎざりしと

以上は白玉を冷水に浮かしたるを賣るものにて今日の氷水店とは全く別ものなれども氷店の前身とも見るを得べければ因に依りて爰に記しおくのみ、サテ仁德天皇の朝に始めて氷室をおかれしこと、源氏物語に氷を弄びし記事ありしこと源賴朝が民の勞を憫いて氷獻上を停められしことなど史上の考證は暫く爰に論せず今日の賣氷の原因に就きて少しく所見を述ぶべし(つゞく)

小說　新不如歸(四十二)

篠原嶺葉著

敏男が愉快さうに笑ふに引替へ、百合子は急に足柄の事が氣になつて、詮方なくするも懶いほど打沈むだが、良人が折角の機嫌を損じさせてはと思ひ、殊更に氣を取直して、

『恨むのなんのつて、那樣ことはありませんけれど、何となしに底氣味惡い方ですこと、私あの方に怖さうな眼色でジロツと見られた時は、軀中が悚然と爲ましたね、本當に可厭な方ですわ。』

『然う云ふと、成程目に些と險があるやうだが、私等は初中終見馴て居るから然程にも思はんが、始めての人には然う怖く見ゑるかね。』

『目ばかりぢやございませんわ、些と一言仰やつても其辭の中には、言ふに言へない針が含むでるのですもの……これから後もちよいちよい被來やるんでせうね。』

『そりや來るさ、同じ所に勤めて居て同じ職務を爲る、友人だもの。』

『本當に可厭ですことね……』

と、我と我が膝に目を落す、敏男は新妻の意を慰め顏に、

『困つたね然う可厭では、成程百合さんが可厭だつて來て下れるなとも云へないが……ではまあ足柄の來た時は成だけ顏を見ないやうにするが可いだらうね』

百合子は寂しげに、

『我任意申して濟みませんけれど、どうぞ然うして下さいまし、後生ですから……』

かゝる折しも徐に襖を明けて、禮儀正しく敷居越に手を突いた下婢は、

『奥樣、御實家からお使が越になりましてございます。』

『然う何か用があつて。』

『如何でございますか、些と御目通致したいと申して居られます。』

『然う、何用か知らん……今行つて會うから然う云つて置てお下れ。』

『はい、畏りましてございます。』

と、下婢が退ると、やがて百合子は玄關の方へ出て行つたが、程なく元の室に戻つてやゝ言難さうな樣子で、

『ねえ貴方、母が些と相談爲たいことがあるから、二三時間で宜いから暇頂ひて來て貰ひたひと云つて參りましたが、如何致しませうか。』

と、良人の顏を伺つた。

『然う、阿母樣がお顏見たいんだらう、行つて乳を澤山頂いて來るが可い、はゝゝゝ』

百合子も微笑しながら、

『では、どうぞ二三時間で歸つて參りますから、お遣りなすつて下さいまし。』

『遲くなると私が迎へに行つてあげるが、お話が濟むだら成だけ早く歸りなさい。』

『永く居れと有仰つても、直に歸つて參りますわ。』

欣々と室を出て姑の室にと行き良人の前の百合子とは別人ではないかと思ふまで行儀正しく、そして嫺に、

『阿母樣、只今實家から使者が參りまして些と私に來て下はないかと申しますが、二時間、三時間もかゝれば往つて歸りますから……』

すると、奈加子は碌々見向きもせず、

『お實家からのお迎へ、然う……御遠慮なく行つてらッしやい。』

と、ツンと橫に嘯いた。



社說　統監の權道政治

太皇帝執政時代の内閣は殆ど服從の義務ありて、閣臣として權限なく總て事皆專斷を仰ぐ習ひなりしと聞く、閣臣は唯だ或る閥派を代表するに過ぎず、其勢力の偏重偏輕なからしむる爲に或る一派が勢力を樹立すれば、太皇は他の一派に多少の後援を與へて之を制し、重勢力の顚倒が宮中に侵入し來らざらしめる巧妙なる閣臣操縱策には何人も嘆賞せりと聞及べり、斯る巧妙なる政策は王族の繁榮を保ち、一門の榮華を維持する上に於ては必要なるべしと雖も是れ國家を治むるの正道に非ざるなり、國民の安危を後にし一門の榮華を圖る權道政治なり、封建制度には斯る權謀ありて治世の道寢頽せるの例乏しからず、專制政治の弊害は全く茲に存す、之れ各國が責任内閣代議政體を採用する所以なり。

然るに憲法の制定者として輿論政治の利を充分に知得せらる〻日本の大政治家伊藤公が統監として朝政を見るに、太皇帝執政時代の操縱策に倣はらる〻の觀あるは余輩の怪訝に堪へざる所なり、試に統監が韓廷に對する行動を見よ、[illegible]胸中の方針を知る者なく、韓廷は唯服從の義務のみありて權限狹く總ての事公の裁斷を[illegible]統治の大方針を知るもの恐らく無からん殊に昨夏の事件以後[illegible]けるも、未だ公が之に對して裁斷を與へたるを聞かず、之れ或は[illegible]となさしめ相互に制肘せしめ其權力に偏重なからしむる彼の巧妙なる政策を踏襲するにあらざるかと云ふ者あり[illegible]公は其[illegible]於て宋秉畯に[illegible]手足を伸長する能はざるに至らしむ爲に宋秉畯は閣臣の職を賭して示威的行動を以て辭任を申出でたるに[illegible]として之を[illegible]、宋秉畯は[illegible]に乘りて馬車馬的に突進し、今や李宋の爭鬪甚しきを加ふ、公は傍觀して默測せり、之れ公が爭鬪中より或る者を[illegible]太皇帝執政時代に相似たるが[illegible]全く韓國化せるものにあらずや、余輩は評者の言を悉く信ずるものにあらずと雖も、其形跡の映ぜざるに非ざるを以て全然之を打消こと能はざるなり、以上の評言が果して公の取る所の政策ならば誤謬の甚しき者なり、大政治家たる伊藤公に斯る僻事なかるべしと信ずれども、昨今の形勢を見れば余輩も亦黙せざるを得ざるなり、斯の如きは國家の觀念を缺ける腐敗政治家の爲す所の權道にして、謹嚴なる政治家の爲すべき事に非ざるなり。

●漢城便り

△今春來轉せられたる韓國勸業銀行も目下東上中なる副統監の配慮により愈々物になるべくとの事に御座候無爲政治旺盛の今日聊かにても經濟の發展を心掛けらる〻子爵の[illegible]と申上度候

某氏の談によれば右の銀行は資本を參百萬圓とし株主及重役を日韓兩國人とし韓政府の補助を受け債劵を發行して零碎の資金を蒐め農工其他の資本として日韓兩國人に長期の貸附をなし同時に各農工銀行の債劵を引受け親銀行の働きを爲すもの〻由に御座候[illegible]必要にして而かも欠ぎ居候ものは此種の銀行に御座候故に其成立は[illegible]するところとなるや必然に御座候[illegible]銀行の組織其他が記者が[illegible]たる前記の通りですれば[illegible]ての働きも大抵推測致され候[illegible]長期貸附を業とする銀行[illegible]は低利の資金を潤澤に[illegible]條件にして具備せずん[illegible]るも并は到底不成効に[illegible]海道拓殖銀行に有之候[illegible]配當を望む株金は到底[illegible]すべきものには無之候[illegible]分の一は到底一般の需[illegible]額には無之に於てをや[illegible]行の問題相起り申候併[illegible]利子さへ六七分を唱ふ[illegible]受者あるべしとも思は[illegible]內地に於ける金融事情[illegible]二三年間は韓國債劵を[illegible]べしとは思はれ不申候[illegible]附債劵は如何との說あ[illegible]模合が今日の有樣にて[illegible]り不申候[illegible]勸銀の資金はツルサキ[illegible]して彼の日本銀行が橫[illegible]爲すが如く現下韓國中[illegible]に長期の貸附を爲さし[illegible]ところの第一銀行をし[illegible]保證準備として兌換券[illegible]て利益は多からざるべ[illegible]き被存候索より第一に[illegible]の迷惑をも受けざるこ[illegible]

桑港電報

▲ライト氏と陸軍卿

[illegible]名の結果タフト氏は陸[illegible]ト氏其の後を襲へり（二十日東京經由）

東京電報

▲乃木大將の歸京

乃木大將は[illegible]順口より歸京直に參內[illegible]況を奏上せり

▲コ博士の謁見

來朝中のコッポ博士夫妻は不日謁見仰付けられ高貴なる勳章を賜はる筈なり

▲獨逸大使の招宴

獨逸大使は今夜コッポ博士其他を招待し夜會を開く（以上十九日發）

▲韓太子の乘馬御覽

韓國皇太子本日宮城內主馬寮にならせられ乘馬を御覽あらせられたり

▲コッポ博士の謁見

コッポ博士夫妻は獨逸大使に同伴せられ二十五日參內兩陛下に謁見する筈

▲伯爵議員選擧

伯爵議員選擧は淸閑寺伯三十八點にて當選す次點者は芳川伯にて三十六點なりと

▲中立議員と在野黨

中野武營仙石貢等の中立議員は在野黨を組織し明晚進步黨其の他の民黨議員と協議會を開く筈なり（以上廿日發）

雜報

●會議所議員東部候補者

京城日本人商業會議所議員半數改選期も旣に迫りて旬日を餘すに過ぎざるも幾きに記せし如く公然候補者として發表せざるも裏面に於ては夫々運動中にて每夜各所に會合して策戰計畫に腐心しつ〻あるが如し東部の如きは過日東部繁榮期成同盟會の總會を開き會則を改正すると同時に其候補者をも決定し一昨日各會員に配布したりと聞く所に依れば東部の候補者として同會が應援すべき人々は左の十氏なりと

中村再造　曾我勉　梶原末太郎
增田三穗　林田金次郎　佐野彥藏
大曲和一郞　松浦源治　近藤正廉

等にして東部は一致團結して右の諸氏を擧ぐることゝし西部に向つて斬り入りつゝあるにも拘らず西部に於ては未だ候補者を決定せず混沌の中にあれども又た四ヶ所爲五郎氏などされば何れ候補者を撰定して西部に一旗幟を飜へし東部と輸贏を決せんと東部に突擊するは容易のことにあらず思ふに東西兩部の決勝點は明治町と旭町を手に入るゝにありと察せらる

●仁川會議所議員選擧結果

仁川商業會議所にては昨日午前九時より議員改選及補缺選擧を擧行したるが三級議員にして當選したるもの左の如尙二級一級は本稿締切迄は判明せざりしにより次號に記す

▲三級新選　十二點伊藤武彥、九點市川武吉、六點宅合名會社、（年長）五點播磨米藏（以上當選）五點宇治原志郞、四點日本醬油會社

▲補缺二點　河野竹之助（年長當選）同桑野良太郞、同和田信次郞（無資格者）

尙伊東武吉は補缺議員三點に當選せるも新選にも當選せるにより棄權す

●三水地方狀況

咸鏡南道三水郡は東南は甲山郡に接し東北は虛川江を經て惠山鎭憲兵分遣所管轄に接し北は鴨綠江を經て淸國領土に接し北は介城嶺にて新賀破鎭憲兵分遣所管轄と境し南は仲坪坊憲兵分遣所管轄と接し一面巍峩たる山脈疊重して田畑稀少なれども一般に農業を營み商をなすもの更になし

△產業及土地生活の程度　前項の如く僻地の事とて主なる產物なく剩へ產出の穀類に於ては到底地方民の供給に滿足を得ず爲めに多少は淸領地より粟、麥、稗等を輸入し是が補充をなしつゝある有樣にして彼等の生活は到て劣等にして一般に麥、粟、馬鈴薯を以て常食とし郡守及主事等の官職を奉する者すら米食を爲すこと能はず

△匪徒歸順勸誘　郡守及各面長が督勵して歸順を勸誘しつゝあるも四月十八日館洞社龍川里金昌なるもの一名ありしのみなり

△電信線の被害　郡內を橫斷せる惠山鎭より長津に到る電信線及電柱は匪徒の爲め切斷せられ未だ再工に着手せず

△敎育及衛生　愚昧なる土人は其日衣食に足れば他を顧みざる者なれば況や子弟の敎育に於てをやされど敎育は稍々必要なりと覺れるにや寒村孤落の僻地に到るも寺小屋体のものにて敎育を施しあるを認めぬ衛生に就ては韓國巡査をして戶々淸潔法を行ひつゝあるも未だ充分ならず

△宗敎　宗敎を信ずるもの稀なれども仲坪場に城津港居住英國人具永善なるもの〻布敎せる耶蘇敎敎師崔若三林亭之外百七八十名の信徒ありて稍々隆盛に赴きつゝあるを以て三水にも十余名あり

△在留民　韓國官吏にして三水郡守韓啓烈同郡主事禹炯弼財務主事高錫弘外惠山鎭警察署三水派出所韓人巡査三名等にして彼等は憲兵分遣所設置に關し厚意を以て迎へ彼我の感情を害することなく圓滑に維持し郡守以下各官民共我を敬慕信賴し居れり

●地方賊徒討伐情況

△慶尙南道聞慶守備隊の討伐隊は六月十四日中太田に於て約六十の賊を夜襲し其十五を殪し之を擊退す△慶尙北道醴泉及榮川守備隊の討伐隊は六月七日川坪里にて李康年の部將朴某の率ゆる百五十の賊に遭遇し寧越方向に潰亂せしむ賊の損害死四十八鹵獲銃五十四其他雜品多數我兵二名微傷を負ふ△京畿道朔寧守備隊は六月十一日安峽東北約二里高地にて賊魁尹甫文の率ゆる十六名の賊を追跡攻擊し其巢窟を挫ぎ死傷せしめ銃器雜品若干を鹵獲す△京畿道抱川守備隊の上等兵以下六名は六月十四日午前八時墓所洞里に於て約五十の賊と衝突し其一を殪し之を北方及び樹谷方向に擊退せり△江原道神林分遣所は六月十六日午後九時多數の賊徒の夜襲を受け直に應戰之を擊退す賊の員數損害は夜暗の爲め不詳△全羅南道靈巖守備隊の上等兵以下六騎は同北東方二里半カン洞にて約百の賊を擊退し其五十を殪す△慶尙南道河東守備隊の下士以下七名は六月五日午前一時月橫附近に於て約八十の賊を臨路中に誘致し其五十一を殪し銃器二十八及び雜品若干を鹵獲す△全羅北道下阜守備隊の少尉以下十六騎は今月十六日茂長の南方一里境洞にて金有成の率ゆる賊約百を攻擊し戰鬪七時間の後約八十を殪せり鹵獲品多數尙同守備隊伍長以下六名は十五日靈光南方三里陸村にて約三十の賊と遭遇し交戰一時間にして其十三を殪し銃器五を鹵獲す△慶尙南道立石守備隊は六月十一日午前二時朴東義の率ゆる約八十の賊の夜襲を受け應戰一時間にして之を擊退し其三を殪す

●仁川實業同志會總會

既報の如く仁川實業同志會にては昨日午後、四時より同地八坂樓に總會を開き事業經過報告信用組合設立趣旨の說明評議員補欠及び會長の選擧等を爲し夫れより懇親會に移りたるが補欠評議員には顯原修一郞河野竹之助の兩氏當選し會長には顯原氏滿場一致を以て推薦されたり

●關稅鑑定引下價格

仁川稅關に於ける牛皮鑑定價二十七圓なりしが一昨日より二十四圓に引下げられたることは昨紙報導したる所なるが尙其他穀類にして昨今鑑定價格を引下げられたるものを聞くに小豆は從來二圓七十五錢なりしを二圓五十錢となり豌豆は從來三圓三十錢なりしを三圓となし既に引下價格にて通關し居れるが此他小米の價格に就いては從來白小米大三圓三十錢小二圓七十錢の二種なりしが昨今砂混り玄小米の輸出さる〻もの稍々出て來りしかば第一二等二圓二十錢を新設すべく目下調査中なりと云ふ

●仁川通信（仁川支局報）

●地稅問題と鐵道問題●

▲然り●●　民團理事者は今回の地稅問題に關して責を免るべからざるべしと雖も民會の盲從的行動は斷して寬すべからざる所なりとす、知らず議員等は自ら覺る所ありや否や、人曰く我富田民長は如何なる人ぞ、世は滔々として輕兆浮薄に流れ一片の誠心だになき現代に於て稀に見る好老漢氏の行動は徹頭徹尾眞面目なり、誠實なり、若し氏の行動にして偶々其職に戾るものありとせるもこは氏の誠實が致す所の罪、則ち咎むべきものにあらざる也と、然れども之は十年前の仁川に應用すべき言辭として聞くを得べきも現今の仁川には餘りに幼稚に識者をして其罪を容れしむるの理由とならず

▲廉恥●●　本問題が未だ議會に提議せられざる以前一部有志より第四十年度に關する請願は之れを却下するも四期に納付するを許し第四十一年度の分は五割を低減する事の妥協案を理事者に提供し地主派又之れを諒とせるに關はらず之れを議會に諮るに及んで議會は斷然之れを斥けたるが爲め遂に今回の不調を見るに至れるものなり、予輩は此措置に出でたる議會の決斷に尠からず敬意を表するを禁じ得ざりしも踏らざりき巷間議員の中に本問題に干する兎角の風說をなすものあるを耳にするに至りしを恨む、予輩は今茲に其如何なる風說なるかを語るを憚る

●五月中仁川在庫品

●仁川商業會議所調査●

五月中仁川三銀行倉庫會社の在庫品如左

▲綿布絲類、和金巾二六個、洋金巾二一〇五四反、晒金巾六個、紡績糸　二八八梱唐綿二一二個、韓木綿三〇個、同麻布三、二〇七疋、吳服反物二四個、晒木綿一三三個、毛繻子二個、羽紬一五個、木綿一五個

▲穀物類　精白米五斗入二二四七叺、同三斗入一三四〇叺、白米五斗入六六九〇叺同七斗五升入七六、玄米五斗入四九八六一叺、同七斗五升入二一叺、糯米五斗入二八六、籾八斗入八三七、小麥五斗入一〇七、大豆同二四六五四叺、小豆同八九一、豌豆同一一、蕎麥同四四四、粉米同一〇〇

▲金屬品類　鐵板一五七九枚、薄鐵板一三〇〇枚、リベット三三五罐、ナット一一五同、亞鉛浪板二七六六枚

▲諸雜貨類　砂糖百斤入三六五個、麥粉二一入袋、疊表五〇枚東一三個、靑蓆同三六〇個、繩叺三〇枚二七〇六同、繩百五十束八三一個、明太魚二〇七個、若目五九九、硝子一三〇九、韓紙八〇五、官製口付煙草八二一、同兩切一三、金口莨二七、刻莨二八六、支那葉莨二四六、牛皮六九、雜品一〇三

●仁川高等女學校開校式

明二十二日午前十時より擧行さる可き仁川高等女學校開校式の順序左の如し

一、職員生徒着席二、來賓着席三、校長始式の辭（一同敬禮）四、君が代唱歌五、校長勅語捧讀六、民長式辭七、理事官祝辭八、來賓祝辭九、校長の答辭十、生徒總代答辭十一、開校式唱歌十二、校長閉會式の辭（一同敬禮）十三、來賓生徒職員順次退場

右終つて生徒の唱歌、遊技、演技等の餘興あり次に來賓、生徒保護者を別室に招き茶菓の饗應あるべし

●國民禮服擬定建議●　國民禮服擬定會にては男女の服制を一定せんと見本に就て屢々協議したるが今回愈よ中樞院に建議することに決したりと

●日本語教授●　大韓醫院付屬醫學校の敎科書は從來日本の敎科書を漢文に繙譯して敎授し來りしが第二回募集の生徒よりは日本語を敎授することゝなれり

●法官養成所生徒の退學●　法官養成所生徒等は過日運動會を開きし日本人敎師長速氏が生徒を毆打したりと稱し同氏を免職せざれば登校せずとて一同登校を中止し居りしが今回愈々一年級二十餘名二年級十一名豫備科五十餘名の生徒等は何れも退學したりと云ふ

公人私人

▲柳澤佐五郎（平壤控訴院長）は家族同伴一昨日函館より赴任の途次入京不知火館

▲松村逸樓（京城控訴院檢事）は一昨日神戶より着京花屋

▲荒木貞雄（東京朝日新聞記者）は平壤地方視察より一昨日入京不知火館

▲栗塚省吾（前代議士）過日來滯京中なりしが一昨日出發

▲新藤寬三郎（海州地方裁判所檢事）は一昨日赴任

▲津末有隣（海州地方裁判所部長）同上

▲辻淸一（二等軍醫）一昨日釜山へ出發

▲澁谷太吉（海州農工銀行支配人）一昨日歸任

●近事片々

▲帝室●● 財產を國庫に移すに就て府中雜鬧類に擾騷し巫女を招て祈禱せしむとは厄介

▲迷信●● は恕す可きも之と共に徒黨して妨害せんとするが如きは斷じて許容す可らず

▲是に●● 就けても府中の革新を行はざる可らず殊に承寧府の一大掃淸は最も急務なり

▲宮相●● を更迭して硬直廉潔の人を擧げて其任に當らしむる必要あり統監健在なりや

▲李完●● 用一進會の壓迫に堪へずして統監に哀訴せりとの說あり豈夫斯く脆弱ならじ

▲併し●● 完用の鬱々として樂まざるは事實也總理の椅子の安全ならざるも亦事實なり

▲完用●● 近來自宅に起臥せずして外泊のみせるとの說あり何事か危險ありてか疑はし

▲自家●● 財產を他人の名義に移したることに起因するか豈夫債鬼の押寄せ來るに非じ

▲一進●● 會本部と地方部と大衝突を起し連日紛議堪へずと少し景氣付て皆斯の如き也

▲宋內●● 相就任以來再昨始て登廳して官房に高等官を集て新任の披露をなす意氣昂然

▲挨拶●● 振りは隨分氣取た者本大臣云々之に低頭平身する日人官吏の態度こそ面黑し

▲近來●● 宋內相の羽振り豪勢なれども之に反抗する勢力も强し茲永續すれば御慰み也

▲朴齊●● 純李址鎔等の中樞院顧問等突然辭任の屆を呈出せり政界暗惰のバロメートル

▲韓圭●● 卨朴齊純李址鎔の一派何事か策しつゝありと聞く後繼內閣の協議位なるべし

▲韓圭●● 卨は韓民間には協約反對者として人氣あり齊純亦惡しからず之を用ゐる亦一策

▲鐵道●● 鐵道は官業として經營せるは人の知る所採掘高は約六萬噸政府の收益六萬圓

▲政府●● の收入六萬圓の爲に官業とするは大に考物也之を邦人に開放するとの差如何

▲韓國●● も總て官業主義となり來る傾向有官營主義は決して國家の繁榮策に非ざる也

▲日本●● は官營主義にて大に手を燒きつゝ有此弊を知りつゝ採用する深意知る可らず

▲後藤●● 男臺灣關東の兩顧問を辭し滿鐵一方に心身を注ぐと兎に角目先が能く見へる

▲尾崎●● 東京市長區長以下を更迭して綱紀振肅を訓示せるは近來の快事なりと言離す

▲統監●● 府にても之に慣ふ必要なきか風紀振肅の必要は慥にあらん統監學堂の斷無乎

▲時事●● 新報美人投票の一等撰に當りて學習院を放逐されたる末弘子野津家に嫁す

▲而も●● 放逐したる乃木院長の仲人にて野津元帥の令息に娶らるゝ事となる目出度し

▲靑森●● 縣碇ケ關に二尾の大蛇相結びて死せり自然主義は蛇に迄及ぼせりとは面黑し

●關釜連絡に對する大阪商船の態度

般、對馬、會下山丸の外更に薩摩丸の一隻を增加し一層關釜聯絡の利便を計り貨物運送上に據るべき對韓貨物の收取に適せる鐵道聯絡の總發は過般郵船の韓航廢止に依り大に緊を屬したる大阪商船に取り最も打擊なるべく今回同社の意見として聞く所に據れば邦人には鐵道の便利なるを以て旅客としては無論大部分を經はるべきも是どて最も難所と聞えたる玄海灘は到底避くる事能はず且大荷物等に對ては海陸接續地點に於て其の積替荷役の手數は漸次其の面倒を感ずべく隨つて將來は必要上の要求に依り鐵道に據るべきものと船舶に依賴すべきものとは勢ひ兩者に分たるべき性質のものたるを信ず故に急速之に對する對抗策を講ずる考へはなし要は貨物專用の船舶を增加する事と客船に對する設備を一層完全ならしめ遂には全然客船を廢止するの程度迄進歩すべき筈な

雜報

●允用の寵妾山月(中)

美人山月は得意の嬌舌を以て允用を手足の如くに使ひて政界に馳驅せしめぬ、當時允用が宮中に出入して建策する所はこの妙齡の美人の胸中より割出せる謀計とは倩も恐ろし、之を聞ける皆舌を卷かざるものなかりき、彼女が日頃の述懷は妾にして門閥の家に生れ宮中に出入することの自由ならば、允用の君をして倚更に勢力を增さしめ妾も日陰者にては居らずかし、されど追々允用の君の時運開けなば妾も亦やんごとなき身分にならるゝも知れじ、よし〳〵今に風雲に乘ずるの機會あらんと密かに謀計を運らしける、美人に節操正しきもの少なきは世のならひ、山月もその道にかけては日頃の智慧深きに似氣なく、他し男に肌觸るゝこども間々ありて、其度每に允用に嫌味を言はれて謝することも多かりしど、倩も其後は何等の風波もなく蜜の如き情交を續けつゝ互に協議しつゝ權勢を得るに汲々たりき、海波穩ならんとすれば暴風之を亂すとかや、月には村雲花に嵐らしの假令の如く、茲に端なく二人の間を割くの時は來りぬ、如何に山月の巧妙なる謀計も時非にして允用の勢力頓に落下し宮中への出入も儘ならぬ仕儀となるに連れ、素と〳〵權勢を得て玉輿に乘らんとする心底にて官妓ともなり、允用にも靡きしもの情交は二の舞ひの山月なれば允用の勢力落下と共に茲に方針を變へざる可らざるに立至りぬ、豫て思ひを翳して寄らば靡かんものと考ありし李根培の勢力に據らばやと思ひし折柄あはよくも其人が切なる思ひを寄せ來るを、妾も君を待焦れたりとて直に應じければ、茲に端なく允用とは破鏡を見るに至りぬ、さても根培と一所になりて見るに允用の才氣もなく允用の如く美男子でもなければ忽ち嫌氣を生せしも、今更に後戻りも出來ず兎にも角にも根培の勢力を利用して何とか身の方針を立てばやと益々得々嬌態なる口舌を以て根培を思ふが儘に動かせども、根培の鈍才にして允用とは雲泥の相違なる爲め何事も運ばず焦れにおれども埒明かず、ほど〳〵嫌氣になりては口を極めて時々罵倒せる時もありしぞ、此頃より好き相手あらば根培を捨てゝ他に乘替せんと目論見ける、好運は落下し來りぬ、當時閔后椎穉の人にて權勢赫々たる閔丙奭に思はれて密かに逢ひ引せしことも少なからざりし、允用の如く美男子には非ざるも中々如才なく氣轉の利きたる男なれば此人に生涯の身を任せて榮達を計るの外あらじと深く觀念し、亦も根培を振り捨てゝ丙奭の寵妾とはなりにける、美人は浮氣にして薄命なりとは何人の言ひ囃せしことなるぞ、山月の行末や如何あるべき(つゞく)

●魂膽七ケ條

△辛い不味は人の噂▽

△脚色當りて獨舞臺▽

嘗て統監伊藤の公の腰にブラ下つて日本內地に赴き、其處ら此處らの歡迎會とやらに柄にも無き駄法螺を吹き立て、在官日吏を泥棒呼はりして可惜口に風も引かざりし某の大臣、己れイヤ漢城政界の花形よと天晴れの面構ね、額の皺に茶を濁して、何處までも伊藤公に縋らんとせしが、マダ早い己れは一足先きにと取殘された後は、哀れや此の大臣身を捨て鉢、或時は水際立ちたる東美人に現を抜かし、また或時は山口の舊知の許に、その昔の忘れ形身を訪れ、斯くて自暴腹の腐らぬ樣防腐劑堅めの日本酒をシコタマ詰め込み悶々の幾日かを過したるが、何日か淡山の雪漢江の氷、春日に向ふて他愛も無く融くれば、嗚呼勿体ない伊藤公こそ、宛ら我れには春の日の神と拜まんばかりに、去るにても未だ足許の暗うならぬ間をこそ急げと、再び漢京に歸り來りて、人は知らじな何を目論見しか、哀れ苦心の幾月幾日、間違へば一發爆藥のお見舞受けて胴腹に風穴の二つ三つ開き相な鹽梅、それも脚色見事圖に當つて、青葉をソヨで渡る初夏の風に、此處漢京の政界は小動ぎして、天晴れ此の大臣の地盤一段と堅うなりしは、道がく〳〵さ褒めて宜いかくさしていいか、何れは貉の物を鼬が取るか、鼬の物を貉が取るか、未だ其處までは開かぬ幕間、ドウセ其の先きは茲に紮す心配無用、兎角今度の黒幕と云ふは有象無象は先づ別問題として、此の大臣の率ゆる某政社が、近頃亂れ勝ちなる盤面に、井目盤いての苦心慘憺、當時九重雲深き處に、一族七拾餘人を召連れたる去る權門を、マンマと釣ね返さん爲めの七ケ條、魂膽細々と書いつらねて、搦手よりの肉迫、預つて大に力ありしは又爭そはれぬ處なりとか、去るにても飛ぶ鳥の翼落されし某權門こそ、哀れや味噌ならぬヱウショウ(油餅)とやらを下し賜はりて、夫れでも口に甘い〳〵恩惰を拜戴し、此處暫時閑寂の境に身を置きがけの駄賃、氣欲のみ徒らに鐘路の紅塵と共に高う御座しけるとか、わわれ

●暴風雨概況

十七日朝は韓國各地は天氣平穩なりしも南清長江流域に在ては氣壓甚だ低減し且雨天なりしが午後二時頃に至ては南韓地方も亦晴雨計大に降りて風雨を交へ夜に至りて風力加はり且つ豪雨となり木浦の如きは午後二時より同十時に至る八時間に四十四粍(一反歩に二百四十二石の割合)の降雨を測りたり而して南清の低氣壓は北東方に急走し昨十八日朝は山東高角の稍東方に襲來し其深度は凡七百四十粍內外なりしが午後二時頃には龍岩浦附近に達し韓國西岸一般に風力增大し京仁附近には降雨を來せり同低氣壓は猶北進して十九日朝には北韓を經過し去り天候漸次恢復に向へり此低氣壓の通過に際し韓國全部に烈風強雨を起したるが內地に於ては九州北部及對馬方面に風雨ありしに過ぎず今各測候所に於ける觀測の概要を記すれば左の如し

地名	雨量(ミリメートル)	最強風力	最強風向
仁川	二九	颶風	南
京城	四〇	強風	南
平壤	四五	疾風	南東
大邱	一六	和風	南西
釜山	七六	疾風	南西
木浦	四六	烈風	南西
鎭南浦	七〇	颶風	南東
元山	一三二	疾風	東
城津	一五	和風	東
龍岩浦	一二	烈風	北

備考 以上は十七日午後二時より十九日午前六時に至る間とす

●本日のメソジスト教會 旭町三丁目名古屋城內京城メソジスト教會にては本日午前九時子供日曜學校、大人聖書研究あり同十時禮拜說教午後八時より傳道說教ありと云ふ

●日曜講壇 日の出町なる京城基督教會にては本日午前十時より左の說教ある由「天與の慰籍」日本基督教青年會幹事今井熊太郎、今日午後八時より「科學と宗教」牟田熊彥

●京城孤兒院の寄附金募集 京城孤兒院主李㬢濬氏は同院經營の爲め今回金一萬圓を限り募集する旨其の筋へ屆け出でたりと因に之が募集の最終期日は十月三十日にして從事者は大垣丈夫なりといふ

●下女現金を拐帶す 中部山林洞居住朴喜景方の下女某は去る拾八日主人の現金二百餘圓を竊取し何れへか逃亡したりしが同家にてはソレを知らず必定自分方の養女(中部管內廣洞居住吉姓女の次女)が竊取したるものと思ひ込み其の旨銅峴分署へ訴へ出でたりしも結果下女の所爲と判明し昨今下女の行方に就て探索中なりと

●建築模樣設計圖を拾ふ 去る十八日午後三時頃南部警察署銅峴分署管內社洞居住金東華が銅峴等地を通行の際南門派出所建築圖形工事模樣書を拾得せしを以て其の旨早速銅峴分署に屆け出でたり

●毆打して人事不省となす 去る十八日午後八時頃南署鍾洞居住鄭文一(三十)及び同署東洞八夫崔庭又(四十)の兩名は鄭の自宅にて飲み合ひしがダン〳〵醉の廻るにつれ兩名とも平素の自慢話をなし始めしより喧嘩の種を蒔き果ては双方大立廻りを始めたりしが其の結果鄭は遂のため散々に打ち据ゑられ殆んど人事不省となりしより鄭の妻女は驚きて其の旨銅峴分署に訴へ出でたりと

●煙草を賭けて說諭 一昨夜南部警察署詰韓人巡査が駱洞を巡回の際請入の貸家に住む李寶春方に多數打集り喧噪しつゝあるを以て不審に思ひ踏み込み見しに李外三名集り花札を以て煙草を賭け勝負を爭ひしかば直ちに花札三十二枚を押收し四名の者には嚴しく說諭したりと

●花園町女房殺の判決 去る五月四日花園町に於て其內緣の妻たる熊本縣平民別城ナツを殺害したる山口縣平民淺海榮吉は其後理事廳に於て審理中の處昨日重禁錮四年に處せられたり

●縊死者 昨日午後二時頃西署管內芹洞居日本人某はある事情の爲めに縊死を圖りしとの報わりしが此稿締切迄には未だ詳ならず詳細は後報を俟つて報道すべし

●ボヤの卵 去る十九日龍山桃山遊廓內雜貨商詩原献方の裏手便所の柱に何者かは知らねども蠟燭を以て火をつけたるものあれども勿論燃ゑ移る筈なく直ちに發見されたるが多分は兒童の惡戯ならんと云ふ

●兎根山のピヤホール 大和町より新町に至る左方の兎根山に其山に因みて兎茶屋と名くるピヤホールを開業せるが涼みがてらに立寄るもの頗る多しと云ふ

●楊弓場開業 旭町三丁目に花遊亭と呼ぶ楊弓場を開業しコーヒ、紅茶、氷水等を販賣する由にて娛樂場には最も適當なりとて來客仲々多しと

●本町座の藝題 同座本日の替狂言は官員小僧全七幕にして重なる役割は官員小僧義正(いろは)義正父義左エ門(石卷)今市玄意(稻村)飾賣與吉(葉山)藝者達摩(濱)婆々たとら(小泉)伊勢屋丹次郎(秋山)小僧岩吉(尾崎)惡漢重五郎(青山)藝妓小梅(阪本)重五郎妻れ百(杉)佐沼の源太(峰松)

翌二十二日の替り狂言は大阪每日新聞連載小說小栗風葉子原作麗子夫人なり

(平)(民)(文)(庫)

▲此の京城から賣春婦を驅逐するの上策としては統監府は無論總ての日本人官吏を罷免するの一事わるのみだ(ヨボ)▲本町座の峰松の松風村雨を見物したが(いろは)の矢田周一は故意とらしく(尼崎)の樋川滑り相當に見られた(坂本)の幸子全なり殊に奥庭の場で峰松と意氣見物を泣かせた(杉)の藝妓二代來ではあるが新橋藝妓とは受け取れぬ鞠聚あたりの夫れ以上には見ねぬ(蜂松)の乙哉確かに夫れと受取れた坂本の幸子と相俟つてアノ長い奥庭のダレ場を引き緊めたのは流石に感心である(劇狂生)▲倚は雨天でも休演せずしてやる勇氣も又豪いものだ(同人)▲三越で夜營業をしないので一杯機嫌を利用して奮發させるのに不便だつせ(韓ま)▲女に自活の道を授くるのは女を不柔順ならしむべくするものであつて女其のものゝ不幸は言ふ迄もなく世界人類の大不幸事だ(みどり)▲何方か俳句を敎へて下さる方はないでしようか(友子)▲泥峴街の商家の丁稚どもに一人として滿足に客を待遇する法を心得て居るものはない(世話女房)▲漢江で端艇の競走でも催したらよからう(海國男子)▲今日の日曜を如何にして暮らそうか南山の老松下に草を褥に涼風を貪りつゝ詩集でも繙くことゝしよう此れが尤も危氣のない銷閑策であらうと思ふから併し雨でも降つたらハテナ(尙古)▲對手を探して座り相撲でもとるサ(編輯の給仕)▲本町六丁目雜貨店西洋造の貳階に御住ひなさる年の頃廿六七才の御奥樣は生れるときわ口から生れたのか何の關係もない私し等の色々非難を付けては曉舌り廻り成さるか御旦那さんわ少し御取締まられないと御顏に障りますよ(下女)

●夏至 明二十二日

●天氣豫報(自二十日午後六時至廿一日午後六時) 南又は西の風曇

二十日午前六時各地氣象概況 區々風吹き北部は雨天南部は概ね晴天なり

廣告

公告

本局事務處理の都合により今二十一日以後不動產利用に關する申請を受理せず

隆熙二年六月二十一日 帝室財產整理局

西の宮た樂の述懷（十九）

◎四辻で偶然其人

一圖に口惜しい心が先に立ち氣が妙になつて仕舞つてジッとして居られずフイと飛び出して譯で楽より何處へといふ目當もなく足に任せてブラ〳〵と仙台の町をウロツきましたがサテ此れぞといふ宜い考へも出ず出るものは只口惜し涙ばかりでムいましたソンナ工合でしたから自分でも宜くは存じませんが何んでも一時さ一時半位は何處をドウ歩ひたかサッパリ分りません只ボンヤりと四辻の曲り角に來ると突然に「ドれらく●●●ちやないか」との聲を掛けられました、何にしろ夜更で人ッ子一人通らずウカ〳〵歩いて居る矢先に突然に聲を掛けられたのでムいますから私はギヨッとして思はず逃げ足になり「ドゝ何方」とれぎ〳〵返辭をいたしますと「俺だよ〳〵」と相手は馴れ〳〵しく寄つて來る「俺ッて何方……」怖わ〳〵男の顏を差し覗いて見ると今も今とて其の男で苦勞して居る東座の座主さんでムいます斯うなると怨みも何にもソッチ除けになつて「アラお前さん……」と思はず寄り添ひ「今時分何んだつて這んな所を……」と急き込んで聞きますと「俺よりヤアお前こそ女の身で……併し先刻は飛んだ二番目の狂言筋でお前に酷く氣の毒な目をさせて何とも濟まねえ……イヽヤ何も惡氣があつて女房のある事を隱して居た譯ぢやないツマリお前に心配をさせたくない許りに隱して居た次第なんだから決して氣を惡くせずにナ……如何で遲かれ早かれ形をつけやうと思つてる代物だもうチットの內お前も我慢して居て吳んねえ……俺だつて男の端くれだ約束をした言葉は反古にやアしねえ」と頻りに言ひ譯がましい事を並べ「實つア俺だッて女房の側に居るのも業腹だから家を飛び出し何家かで一杯あ●●●をりをつけやうと此所迄ぶら〳〵やつて來たんだ」と丁度私と同じやうなんです「併しソレはソウとお前さん此の先什麽私の形を付けて下さる積りなのサ……お前さんも知つての通りの事情で旦那はなくなッて仕舞ふ只もうお前さん許りが杖とも柱とも思つて居たに今更のやうな事が持ち上つて見ると……夫りやア如何せコンナ稼業をして居る私の事ですからお前さんの氣がやテンから浮氣で掛つたのかも知れないが私は最初から眞劍なんですよ」と申しますと男は慌てゝ「俺だつて眞劍サ……お前のいふ事は一々道理でソゥ眞正面から開き直つて來られると俺やア穴へでも這入りたいやア納まりがつかなくなる……然しコンナ咄を此所で立ちながらするのも餘り褒めたことでも無ねえ……兎に角何家かへ落ち付いて能く相談をするさ什樣ぢやアないか」と言ひ出しましたので私もソレもソウだといふ氣になり二人連れ立つて足を運びました（つゞく）
